

学んで、

宇治

座者と歴史学者による座学と、地域活性化に向けて同大学の学生で結成した「宇治☆茶レソジャ」のサポートで抹茶や煎茶、玉露を上手にいれる体験を組み合わせる。

講座に4回以上出席した人には府から修

治茶をいかした景観まちづくりシンポジウムへの出席も1回に数える。

初回は(佛山政小山園(宇治市小倉町)顧問で府の宇治茶伝道師の小山茂樹さん(67)が、茶商の技術と宇治茶の魅力について語った。茶商

台頭しても急須でいれて飲むお茶には独自の魅力があることをPRした。

体験コーナーでは、参加者が学生のアドバイスで抹茶を点て、優雅な一服を味わった。

参加した同市木幡の飯田進さん(71)はお

予定は後記の通り会場はいずれも京都文教大、参加無料、定員30人。申し込み(各回前日まで、問い合わせは同大学フィールドリサーチオフィスTEL25・2630、FAX25・2822、EメールTook@dokku.ac.jp)。

心くすぐ
周年
イベ
久御山町のゆうホー
ルで毎月1回壊れた

室内温度「バリアフリー」を

宇治市横島町サン・ウインド 断熱窓普及率は後進国

宇治市横島町のサン・ウインド(株)(高橋秀直代表取締役)は、手軽かつリースナブルな予算で断熱対策や結露軽減などに効果がある「エコ窓」を独自開発。省エネで快適な住まいづくりを

空機の内窓などにも採用されており、メーカー製のペアガラスの約3分の1の費用で設置できる。さらに家庭でも簡単に取り付け作業が行え、紫外線も99%カットされる優れたものだ。

現在、断熱窓の世界普及率は先進国のヨーロッパやアメリカは90%以上で近隣の中国も約60%だが、日本は20%前後と取り付け意

識は非常に低く、後進国というのが現状。住宅内での急激な温度変化によるショック死の率もかなり高いという。

開発するきっかけとなったのは、断熱窓のリフォーム依頼があった時に最終的に費用がかさんでキャンセルになったこと。何とか窓のプロフェッショナルとして依頼者の予算に配慮できる商品がないのか、



エコ窓の断熱効果を説明する高橋社長

また、先頃行われた宇治環境フェスタ(宇治市など主催)の会場にも出展。日常生活で「窓」がいかに大切かを周知するためにiPadなどで映像も含めた説明も行った。

高橋社長は「室内温度のバリアフリー」が大切。中小企業はお客様に喜んでもらえてこそ成り立つ」と言う。これからも断熱窓などに関し

て、より一層の啓発を行っていく構えだ。商品に関するお問い合わせはフリーダイヤル0800-0800-1400まで。【PR】